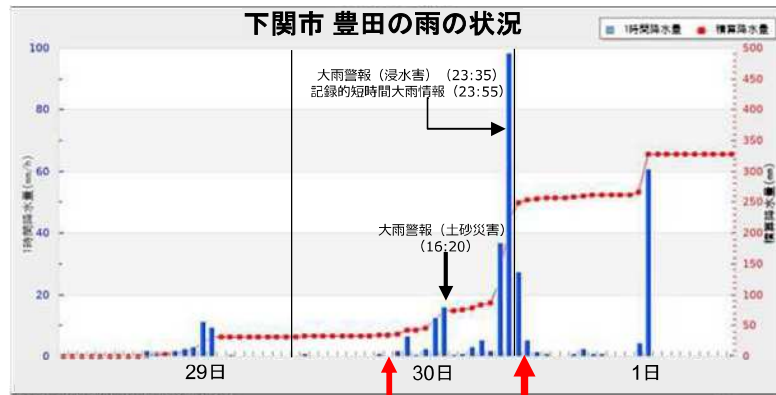


線状降水帯の予測精度向上に向けた取組 (情報の改善)

観測や予測の強化の成果を順次反映し、令和4年6月より、線状降水帯による大雨の可能性の半日程度前からの呼びかけを、令和5年5月より、「顕著な大雨に関する気象情報」(線状降水帯の発生をお知らせする情報)をこれまでより最大30分程度前倒して発表する運用を開始。

令和6年5月28日からは、令和4年度から開始した半日程度前からの呼びかけを府県単位で実施。



「明るいうちから早めの避難」・・・段階的に対象地域を狭めていく

令和3(2021)年 線状降水帯の発生をお知らせする情報 (令和3年6月開始)	令和4(2022)年～ 広域で半日前から予測 (令和4年6月開始)	令和6(2024)年～ 府県単位で半日前から予測 (令和6年5月開始)	令和11(2029)年～ 市町村単位で危険度分布形式の情報を半日前から提供
---	---	--	--

今年度の新たな運用

令和3年度～「富岳」活用開始
令和4年度～線状降水帯予測スパコン運用開始
令和5年度～次世代気象庁スパコン運用開始



令和11年度～次期静止気象衛星運用開始



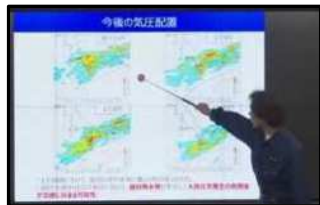
令和5(2023)年～
最大30分程度前倒して発表
(令和5年5月開始)

令和8(2026)年～
2～3時間前を目標に発表

「迫りくる危険から直ちに避難」・・・段階的に情報の発表を早めていく

半日程度前からの呼びかけ (6月30日 10:00)

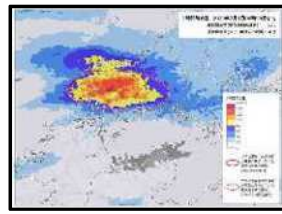
- 九州北部地方(山口県を含む)で線状降水帯発生の可能性を予測
- 明るいうちからの早めの避難を呼びかけ



予測地域の絞り込みが課題

顕著な大雨に関する気象情報 (7月1日 1:00)

- 山口県西部・中部・北部における線状降水帯の発生をお知らせ
- 迫り来る危険からの直ちの避難、身の安全の確保を呼びかけ



発表の早期化が課題

新しい予測技術について

半日程度前からの線状降水帯の呼びかけの判断に、以下の新たな予測技術を活用

- **10時間先⇒18時間先まで延長された水平解像度2kmの局地モデル (LFM)**
- **メソアンサンプル予報 (MEPS) の降水量予測から算出した危険度分布 (キキクル)**

⇒ 数値予報モデルの改良による降水予測の精度改善に加え、これらの技術の新たな活用により、府県単位での情報発表を実現

【情報発表までの流れ】

数値予報等による予測

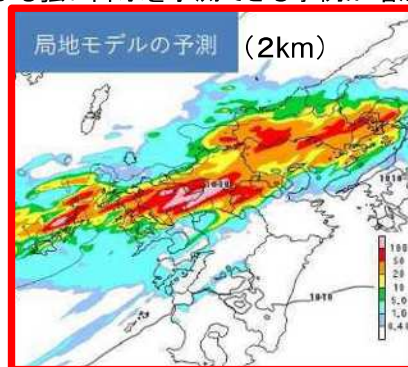
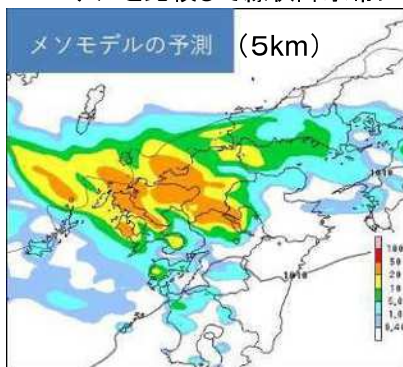


各種観測データ

○これまでメソモデル等を用いて判断していたが、以下の予測技術も新たに活用

水平解像度2kmの局地モデル(LFM)

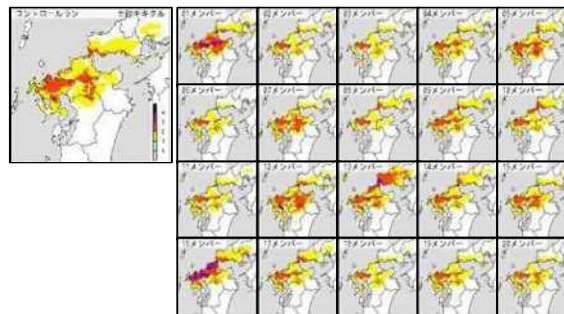
- 18時間先まで延長された解像度の高い局地モデルの活用により、メソモデルと比較して線状降水帯による強い降水を予測できる事例が増加



令和5年7月10日6時に線状降水帯が発生したときの予測(7月9日15時の初期値 15時間先)

危険度 (線状降水帯検出条件の1つ) の予測

- 雨量だけでなく、線状降水帯検出条件の1つである危険度が高まる可能性も新たに考慮



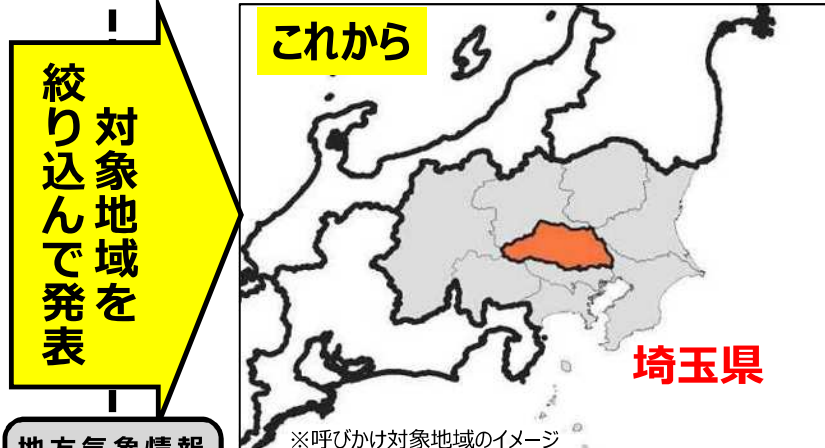
メソアンサンプル予報による21通りの降水量予測をもとに、それぞれの危険度分布(キキクル)を算出することで、危険度が高まる可能性の高低を把握することができる

予報官による判断



線状降水帯による大雨の可能性が高いことが予想された場合に情報を発表

令和6年から開始した府県単位での呼びかけ（地方/府県気象情報）



対象地域を
絞り込んで発表

地方気象情報

大雨に関する関東甲信地方気象情報 第〇号
〇年〇月〇日〇〇時〇〇分 気象庁発表

<見出し>
**関東甲信地方では、〇日夜には、線状降水帯が発生して大雨災害発生
の危険度が急激に高まる可能性があります。**

<本文>
… (略) …

大雨に関する関東甲信地方気象情報 第〇号
〇年〇月〇日〇〇時〇〇分 気象庁発表

<見出し>
**埼玉県では、〇日夜には、線状降水帯が発生して大雨災害発生
の危険度が急激に高まる可能性があります。**

<本文>
… (略) …

府県気象情報

対象とならない関東甲信地方の他の都県では、
府県気象情報での呼びかけをしない。

大雨に関する埼玉県気象情報 第〇号
〇年〇月〇日〇〇時〇〇分 埼玉地方気象台発表

<見出し>
**関東甲信地方では、〇日夜には、線状降水帯が発生して大雨災害発生
の危険度が急激に高まる可能性があります。**

<本文>
… (略) …

大雨に関する埼玉県気象情報 第〇号
〇年〇月〇日〇〇時〇〇分 埼玉地方気象台発表

<見出し>
**埼玉県では、〇日夜には、線状降水帯が発生して大雨災害発生
の危険度が急激に高まる可能性があります。**

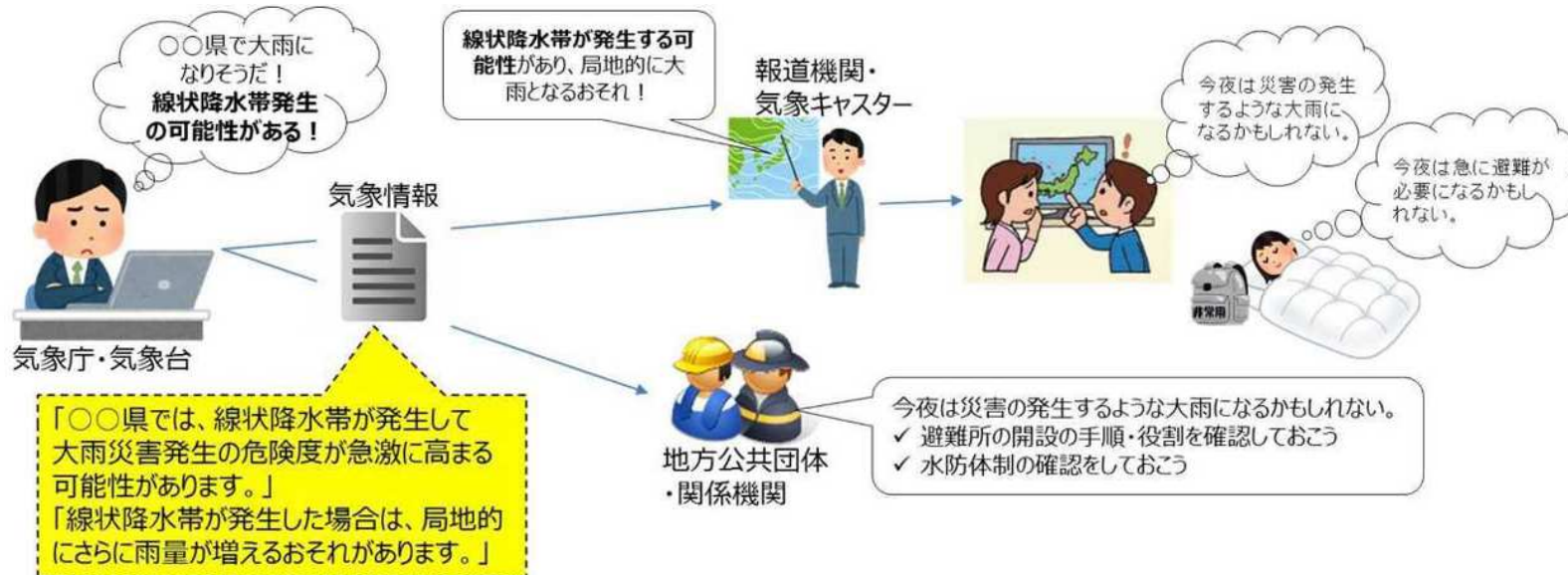
<本文>
… (略) …

※北海道や沖縄県では、府県予報区単位で発表します。
※鹿児島県では奄美地方を、東京都では伊豆諸島と小笠原諸島を区別して発表します。
※発表する情報の電文フォーマットは変わりません。

呼びかけが行われた時の対応例

府県単位で呼びかけを行います、
これまでと対応は変わりません。

- 線状降水帯が発生すると、大雨災害発生の危険度が急激に高まることがあるため、心構えを一段高めていただくことを目的としています。この呼びかけだけで避難を促すわけではなく、ほかの大雨に関する情報と合わせてご活用ください。
- **市町村**の防災担当の皆さまには、避難所開設の手順や水防体制の確認等、災害に備えていただくことが考えられます。
- **住民**の方々には、大雨災害に対する危機感を早めにもっていただき、ハザードマップや避難所・避難経路の確認等を行っていただくことが考えられます。



線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけや「顕著な大雨に関する気象情報」といった線状降水帯に関する情報だけでなく、大雨警報やキキクル（危険度分布）等、段階的に発表する防災気象情報全体を適切に活用することが重要です。

【参考】線状降水帯の予測精度向上に向けた取組（観測・予測の強化）

線状降水帯は、現状の観測・予測技術では、正確な予測が困難なため、水蒸気観測等の強化、強化した気象庁スーパーコンピュータや「富岳」を活用した予測技術の開発等を進め、速やかに防災気象情報の高度化に反映し、住民の早期避難に資する情報を提供する。

